



INTERVIEW



小原地区振興会
いわた まさのり
岩松 義則 会長

6月6日に「おらいのくるま」の本運行を迎えることができたことをうれしく思っています。これまで小原地区では実証実験や、「交通運行を考える会」で何度も議論を重ねてきました。このたび、本運行を迎えることができたのも地区の住民が一丸となって取り組んできた成果だと思っています。

しかし、初めての取り組みでまだまだドライバーも登録者も少ない状況なので、今後は運営委員会を立ち上げ、自治会長、民生委員と連携し、ドライバーの確保や登録者の増加に取り組んでいきたいと考えています。始まったばかりで課題もありますが、「おらいのくるま」が持続可能な地域内交通のモデルになればと思っています。



「おらいのくるま」
ドライバー
こむろ けいいち
小室 桂一 さん

「おらいのくるま」のドライバーとして利用者の送迎を通じ、地区内で顔見知り程度だった人と親しくなり、交流を深めることができることにやりがいを感じています。送迎した利用者から「またぜひ小室さんをお願いしたい」と言われるとうれしいものです。

おらいのくるまは、タクシーなどとは違い、お互いのことを知っているというのが一番の特徴です。知り合いだからこそ、気兼ねなく安心して利用いただけると思います。

雪が多い地区なので冬場の運転は気を使いますし、利用者も高齢の方が多く、乗降のお手伝いなど大変なこともあります。持続可能な地域内交通として、今後も続けていければと思っています。



1_雪の中多くの住民が見送った実証実験出発式 2_降雪の様子、利用者からも好評です！ 3_小原地区の「地域内交通運行を考える会」で熱心に議論をかわす様子 4_「おらいのくるま」のドライバーの皆さん（左から）斎藤清治さん、小室桂一さん、大浦英夫さん、高橋康男さん

小原地区ボランティア送迎 「おらいのくるま」本運行開始！

☎まちづくり推進課 ☎22-1327

本市では、第6次総合計画並びに地域公共交通計画において、既存の公共交通では対応できない山間地域などにおける住民主体の新たな移動・外出サービスの整備を支援しています。

令和5年度より小原地区をモデル地区として、まちづくり協議会が主体となり、新たな地域内交通の仕組みづくりの話し合いの場を設け、地区の実情にあった地域内交通の運行計画の策定などを進めてきました。

小原地区では地区の交通運行を考える会で何度も検討を重ね、令和6年1月から「おらいのくるま」の実証実験に取り組み、いよいよ6月6日から本運行が始まりました！利用できるのは小原地区在住の方のみですが、「おらいのくるま」は新たな地域内交通のモデルとして期待されています。



「おらいのくるま」とは
事前に電話で予約することで、自宅から指定停留所まで移動ができるボランティア送迎です。予約により決まった時間に運行するため、同じ時間の利用者が相乗りで利用します。車両はバスやワゴン車などではなく、ドライバー（ボランティア）の自家用車で運行します。

運行曜日

木曜日
公民館行事の日

乗降場所

自宅前、地区内バス停、小原温泉、小原公民館、各集会所、郵便局（小原、赤井畑）

利用できる人

小原地区内在住の方で自分で乗降できる方ならだれでも

運行時間

行き 9:00 ごろ
帰り 14:00 ごろ

利用料金

1回50円

